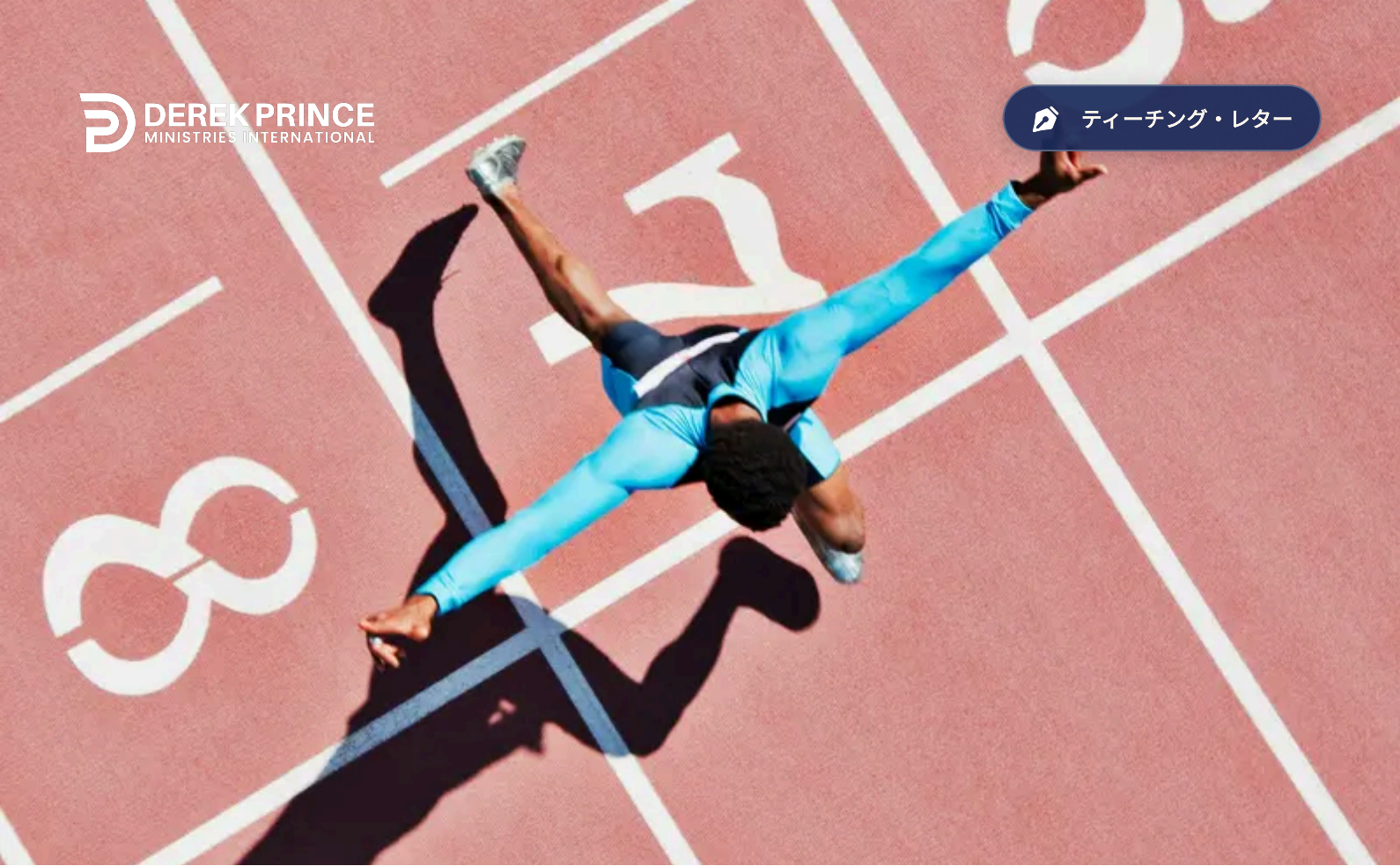




走り終わる



部 4/6
試練に立つ品性
著者 デレク・プリンス

ウェブスターの新世界辞典は、忍耐を「不屈の精神」および「持続する、続ける、または留まる能力」と定義しています。私たちはこのテーマを過去3回の書簡で学び、この書簡で学びを締めくくります。しかし、「堅く立つシリーズにはあと2つの書簡があり、そこで神の言葉の権威について学びます。私たちは、留まる能力、すなわち忍耐に関する代償と祝福の両方を学んでいるのです。

別の学びの書簡で、私は忍耐を養うために2つの提案をしました。一つ目は、真心からイエスに献身することです。使徒の働きで、バルナバは「心を堅く保って」いるようにと語りました。他の人がそうしようがしまいが、主に忠実であり続けることを決心します。たとえ、あなたの友人がそうしなくても、あなたはそう決心するのです。もし、あなたの家族がそうしなくても、あなたはそう決心します。患難が来ても、あきらめません。それが、心を堅く保つということです。

忍耐の2つ目の原則は、ヘブル11：27から来ており、モーセが、「信仰によって、彼は、王の怒りを恐れなくて、エジプトを立ち去りました。目に見えない方を見るようにして、忍び通し

たからです。」という部分です。モーセの信仰は見えない方にありました。あなたが忍び通すためには、目に見えない世界は、目に見える世界以上に現実的なものでなければなりません。

何年も前、スウェーデンの牧師の娘が英語を学ぶためにロンドンに3か月滞在しました。私が英語を教えたのですが、彼女はとても美しく、才能があり、歌声の素晴らしい少女でした。彼女の父親はスウェーデンで最大のペンテコステ教会の牧師で、その娘は、非常に厳しいペンテコステの環境で育ちました。

その少女は14歳の時、学校で友人たち全員が映画やダンスなどの娯楽について話しているのを耳にしました。そして、彼女はとても興味を抱くようになり、ある日父親にこう言いました。

「お父さん、お父さんが私を大切に、しつけ、育ててくれたことを感謝しているわ。でも、私はこれから別の道を歩みたいと思うの。この世が提供するものを見てみたいの。私の友達がみんなそれについて話しているのを聞いて、自分でも確かめてみたいの。」すると、知恵のある父親は、こう言いました。

「バーバラ、お母さんと私はお前のために祈っているよ。」父は反対しなかったのです。それが間違っていることだとは言わず、「私たちは祈っているよ。」とだけ言いました。

その夜、彼女はこれまでで最も鮮明な夢を見ました。その夢には2つの都市が出てきました。一つは大きく近代的な美しい都市で、いたるところで光がきらめき、輝いていました。谷の向こう側にもう一つの都市があり、そこには別の種類の光がありました。それはきらめきや輝きこそありませんでしたが、安定し、静かな光がありました。彼女がネオンの光輝く街を見ると、ひとりの男性が彼女に自己紹介をしました。彼は非常に

て聞き届けられました。しかし、わたしは、あなたの信仰がなくならないように、あなたのために祈りました・・・」(ルカ22：31-32)

何という深いことばでしょう。イエスは、ペテロが自分を否定しないように祈ったのではなく、ペテロの信仰がなくならないように祈ったのです。もし、ペテロの信仰がなくなってしまうたら、元に戻る方法はありません。ですから、あなたは失敗したとき、あなたの手を伸ばし、主にその手を取ってもらってください。そして、あきらめないでください。なぜなら、主はあなたをあきらめないからです。

最後に、表彰式があることを忘れないでください。人生のすべての問題が今ここで解決されるわけではありません。将来のために残されているものがあります。パウロが牢の中からテモテに書いたことばを見てみましょう。

「私は勇敢に戦い、走るべき道のりを走り終え、信仰を守り通しました。」（Ⅱテモテ4：7）

これらの3つの達成が同時に起こります。あなたが信仰を守り通そうとするなら、戦わなければなりません。信仰は戦いです。あなたは戦いを避けて信仰を守ることはいけません。あなたが走るべき道のりを走り終えようとするなら、戦わなければなりません。パウロは言いました。私は3つすべてをやり遂げた。走り終えた、戦った、信仰を守り通した、と。そして、こう言いました。

「今からは、義の栄冠が私のために用意されているだけです。かの日には、正しい審判者であ

る主が、それを私に授けてくださるので
す・・・！(8節)

パウロは非常に不当でよこしまな支配者であるネロ皇帝によって刑が執行されました。その裁判は公平ではありませんでしたが、パウロは、それは最後のことばではなく、別のさばきの日があると言いました。栄光の冠を受ける日があると。そして、そのさばきは完全に公平であると。それは、主ご自身で、主は私に勝利の冠を与えてくださると。

長年にわたる私の人生の中で、表彰式は学生時代の重要な部分でした。そして、私は多くの賞をもらいました。しかし、私が勝ち取らなければならないもう一つの賞があり、それは、信仰を守り通し、戦い、走り終えた人だけのものです。パウロは時間を超えたものを見ていたので、最後まで忠実であったと私は思います。彼は永遠を追求し、金、銀、銅のメダルが授与される偉大な表彰式を見ていました。私たちの内には、誰が金メダルをもらうのかを見て、驚く人もいるでしょう。走る速度が表彰されるわけではありません。仕える忠実さが表彰されるのです。主が強調しておられることは、忠実であることです。イエスのことばを思い出してください。「よくやった。忠実なしもべだ。」(マタイ25：23)

私たちの多くにとって、忍耐がためされる日々が私たちの前に置かれています。その日々は易しいものではありません。私たちが耐える迫害は、他のすべてのもの以上にあるものを試します。それは、主と、キリストのからだ両方に対する私たちの忠実さです。みなさんが、「私は信仰を守り通しました。不忠実ではありませんでした。あなたを裏切りませんでした。」と言うのを私は見たいのです。これが、私たちの前に置かれた試練、すなわち品性と忠実さの試練であると私は心から信じています。もし、その試練に耐えるなら、火で練られた金のようになってその試練から出てくるでしょう。

